

平成28年度 第2回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

開催日時 及び場所	平成28年9月29日（木） 13:30～ 15:15 中部森林管理局 大会議室
出席委員	植木 達人 （信州大学農学部 教授） 委員長 生方 正俊 （森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部 部長） 奥 敬一 （富山大学芸術文化学部 准教授） 西條 好迪 （自然学総合研究所 理事長） 竹中 千里 （名古屋大学大学院生命農学研究科 教授） 由井 正隆 （長野県木材協同組合連合会 理事） <p style="text-align: right;">委員8名中6名出席 （五十音順）</p>
議 題	(1) 保護林の再編（案）について ア 保護林の再編（案）について イ 保護林再編作業のスケジュール（案）について (2) 平成28年度保護林モニタリング調査の実施状況について
概 要	○ 議題（1）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護林の再編（案）及び保護林再編作業のスケジュール（案）については、原案のとおり了承された。 【主な意見等】 ・ 希少個体群保護林の面積要件（5ha）の考え方について、目安ということで納得した。 ・ 狭小な金峰山カラマツ植物群落保護林、佐渡山スギ植物群落保護林を廃止するに当たっては、保護林だったことを森林調査簿等に記載しておくべきではないか。 →森林調査簿に記載する予定である。 ・ 保護林再編前までの森林調査簿は今後も保存されていくのか。 →そのとおり。 ・ 廃止となる林木遺伝資源保存林の全国的な動向を見た上で、林木育種センターとしてそのいくつかについて継続的な調査を検討したいと考えている。 ・ 「遷移」と「推移」の2つの用語が使われているが統一したらどうか。 →林野庁長官通知に合わせている。 ・ モニタリングの実施間隔について、病虫害等が発生した場合、本委員会で論議し変更できるのか。 →そのとおり。 ・ 極相状態にある生育のステージや大きな現象に応じて、臨機応変にモニタリングの実施間隔を変えることができればよい。 ・ 薬師岳希少個体群保護林周辺では登山者により植生が劣化している箇所、復元の取組が行われている。このため生物群集保護林への位置付けることを将来検討するとよい。 ・ 民間で保護林を利活用する中から保護林を守ろうとする動きを国有林として受け入れることができるのか。制度として何らかの財政補助があるのか。 →民間の保護活動は歓迎するが、森林管理局からの補助制度は今のところない。 ・ 森林学会の林業遺産に保護林としてふさわしい浅間山カラマツ希少個体群保護林は、登録申請を検討されたい。 →了解した。 ・ 保護林名に使われている樹種名を標準和名に変えることは良いと思う。全国的にそうすべきである。 →林野庁に伝えるが、地域性も考慮する必要があると考える。 ○ 議題（2）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。